

---

# ノンカピスコ・子猫のような君

天野 涙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ノンカピスコ・子猫のような君

### 【Zマーク】

Z9998D

### 【作者名】

天野 泪

### 【あらすじ】

初老の女性が、ある日、若い子猫のような男をひろった。

ねえ、クロ。元気にしてる?

あなたがいなくなつて、もう何ヶ月たつたのかしらね。

初めて会つたのは、桜が散る季節。花曇りの朝だつた。  
飼い犬のサキを連れて、散歩をした帰りの事、  
公園の桜の下、あなたはつづくまつていた。

いつもなら、氣にも止めないのに、かいまたあなたが、あまりに  
可愛いので  
つい・・声をかけてしまつたのだ。しなやかな子猫のよひに見えた。

『もし・・・ビリしたの?』

後であなたは言つてたわよね。

(もし、あの時、ゆり子さんが助けてくれなかつたら、  
俺・・今頃どうなつていたかと思つよ)

女泣かせの嘘をつく。でも嬉しかつたのが懐かしい。

『お腹が痛くて・・・すいません。助けてください。』

『じゃあ、救急車呼びましょうか?』

あなたは苦笑いしながら、首を振る。

『恥ずかしいけど・・・』 2・3日前にも食べてなくて・・・』

どうやら、空腹すぎて痛いらしい??

私はつこで、声をかけてしまつた。

『じゃあ、私の「ひに来るっ」」飯食べましょっ・・・』

後から思つと、なんでそんな軽はずみなことを言つてしまつたのか  
わからない。

でも、田の前に立つて可愛らしいあなたを見ると、立ち去つがたくそう言  
つてしまつた。

もつれこじで、やつぱり運命だつたとすると思ひ。

『え？見ず知らずのあなたに迷惑でしょ「ひ・・・』

『「つん、どうせ一人だから。」」飯つて誰かと食べる方が美味しい  
じゃない。』

『じゃあ、お言葉に甘えて・・・』

そう、あなたは甘えてばかりいたわよね。  
でも嬉しかつたの。本当に。

サキもあなたにすぐなつき、まるで違和感なく 嬉しげにあなたを  
追つて歩いてた。

それから、一人で食べたよね。

あなた、モリモリ食べて・・でも食べ方がキレイだつた。

素性もわからないのに、育ちは悪くないと思えたのよ。

『あなた、名前は？』

『笑わないでくださいね。クロつて言つんです。』

『クロ？なんか猫みたい。』

『そつ、よく言われます。にゃん-。』

そうあなたは子猫のよつて、しなやかに、人の心に忍び込む名人だ  
と思うわ。

朝食を食べると、途端に居眠りして、そのまま翌朝まで  
寝たのには驚いた。

よほど疲れていたのね・・・私は単純にそう誤解したの。  
寝顔も可愛くて、そつと寝かせてあげたくなつた。

私はあなたをそのまま延々受け入れてしまつたのよ。

『あなた、仕事は?』

『レンタル家族・・・』

『え?』

『いえ、今思いついて、開業したばかり。

淋しい人の為に、時には息子。時には恋人になるつて、よくない  
ですか?』

彼は、まるで私の心を見透かしたよつてそう言つて笑つ。

『じゃあ、私にお客第1号になつて欲しいつて事?』

『おありがと「ひざむこます~。』

何かわけのわからない間に商談成立?

笑っちゃうわよね。

それから、本当に時に息子になり、恋人になり?過ごした夢のよつ  
な日々。

でもふいにあなたは思い立つたよつて、荷物をまとめました。  
(と言つても、みんな私が買つてあげた服だけけど・・・)

『クロ、ビヘしたの?ビヘに行くの?』

あなたは、悪びれることもなく 『うこつたわ

『次の商談がまとまつたんだ。お名残惜しいけど・・もう行かなく  
ちや。』

『そつ・・淋しいけど。お別れなのね。』

『うん、ゆり子さん。よくしてもらつたよ。ありがとうございます。』

『元気でね。』

玄関で振り向かれるも、あなたは言つたわ。

『ゆり子さん、請求書は後で送るよ。』

『請求書?』

『うん、僕も一応商売だから。』

そう・・・ああ、あなたレンタルだものね。

改めて言われると、少しショックだった。所詮、『うこつたのか・・・。

あなたがいなくなつてから、私は抜け殻だった。  
毎日淋しかつたわ。

でもある日、突然不動産屋が来て、私を追い出したのよ。

いつのまにか、知らぬ間に

あなたが不動産の権利書を持つていって、売却したと聞かされたわ。

(ああ、これがあなたの言つ報酬なわけ?・?・?)

ショックだった・・・。高すぎるわ。

でも幸い私には、親が残した財産がまだあって、今は所有のワンルームマンションの一室でいる。

ちゅうどいに広さだけだと、まあ、前の家は広すぎたのね。

でもね、あなたをまだ探してる。

次の商談は私にしてと・・・言いたくて。  
電話してね、クロ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9998d/>

---

ノンカピスコ・子猫のような君

2010年10月9日15時18分発行